学校関係者評価 報告書（国際高等課程）

大阪YMCA国際専門学校
校長 山根 一毅

文部科学省による「専修学校における学校評価ガイドライン」の評価項目に沿い、本校では、専門課程及び高等課程別に、より教育内容と目標に合ったものに改めて、自己点検・自己評価を実施しております。
2025年度分は、自己点検・自己評価、在校生・在校生保護者、卒業生・卒業生保護者アンケートを2026年3月に実施しました。それらに基づき、下記日時に開催した「学校関係者評価委員会」において、以下の評価と意見がありましたことを報告いたします。
今後はこれらの意見、助言を踏まえ、よりよい学校運営と教育活動に努めてまいります。

開催日時　2026年7月13日（月）／9月7日（月）　14：00～16：00

開催場所　大阪YMCA国際専門学校

学校関係者評価委員　学校関係者　9名　事務局　8名

【学校関係者】
国際こども学フォーラム事務局　代表
元大阪府立高校校長
LLPチーム経営研究所　代表
立命館大学　特任教授、神戸市「育てる教育相談」実践事業アドバイザー
学校法人大阪YMCA監事、元私立高校校長
国際学科元教員、前私立中学校校長
本校アドバイザー、元高等専修学校教頭
関西学院大学教育学部准教授、大阪YMCA会長
学校法人大阪YMCA理事、大阪YMCA教育顧問
【事務局】
大阪YMCA国際専門学校　校長
大阪YMCA国際専門学校　副校長
大阪YMCA国際専門学校　国際学科　学科長
大阪YMCA国際専門学校　表現・コミュニケーション学科　学科長
大阪YMCA国際専門学校　国際学科　主任
大阪YMCA国際専門学校　表現・コミュニケーション学科　主任　2名
大阪YMCA学校法人本部　事務局長

総　括

自己点検・自己評価および各種外部アンケート（在校生・卒業生・保護者）において、全体的に高い評価が得られた。自己点検・自己評価では、「法令等の遵守（3.6）」「国際交流（3.6）」「生徒支援（3.4）」「生徒の受入れ募集（3.4）」「教育理念・目的・育成人材像（3.2）」「教育活動（3.2）」で高評価となっている。前年度の課題であった学科間の評価差は、大項目全体平均（表現・コミュニケーション学科(以下表コミ)：3.3、国際学科：3.2）や「生徒支援」等で同等となり、縮小傾向が見られる。0.5ポイント以上の開きが生じたのは「教育理念・目的・育成人材像」（表コミ：3.4、国際学科：2.9）の1項目のみとなったが、細目の一部では依然として国際学科の慎重な評価が目立つ。同学科教職員の「分析的・批判的な視点」という強みを活かしつつ、生徒の変容や達成成果を適切に評価し、教職員間で共有する時間やシステムの構築・強化が継続的な課題である。

「生徒支援」に関しては、在校生の85%・卒業生の91%が「相談にのってくれる」と回答したほか、保護者においても在校生保護者の96%・卒業生保護者の94%から非常に高い評価が得られた。複数担任制や週1回の生徒支援会議、カウンセラーおよび特別支援教育コーディネーターとの連携など、手厚い支援体制が高評価の基盤となっている。ただし、手厚い支援に伴う教職員の負担増は依然として課題であり、外部機関やボランティア等の有効活用が今後の改善策として挙げられる。

外部アンケートでは保護者からの評価が特に高く、「この学校に入学させてよかった」との回答が在校生保護者で97%、卒業生保護者で94%に達した（生徒本人も在校生：86%、卒業生：88%が肯定）。教職員の親身な対応や安心できる居場所づくりが、生徒・保護者双方の深い信頼を支えている。なお、生徒の「遅刻・欠席」に関する自己評価は他項目よりやや低いものの（肯定率6割強）、不登校経験者が多い本校の背景を考慮すれば、補講や面談を通じた粘り強い取り組みが着実に成果を上げていると捉えられる。

総じて、本校の教育活動および生徒支援に対する信頼は極めて厚い。一方で、施設・設備の改善要望をはじめ、年間行事やテスト等のスケジュール連絡の迅速化、授業規律の徹底、教職員の負担軽減は今後の改善課題である。今後は成果の「見える化」と情報共有体制の充実を進めるとともに、業務効率化と迅速な連携を図り、引き続き生徒中心の教育活動を推進していく。

学校関係者評価委員会資料　　NO.1

＊４段階　４－そう思う　３－ある程度そう思う　２－あまりそう思わない　１－思わない

評価項目		自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		2025	評価項目総括	平均	学校関係者評価委員からの意見
(1) 教育理念・目的・育成する人材像		3.2		3.7	教育理念などは高い評価を受けているが、文言の明記などが必要になってくる。
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.4	1-1 教育理念、方針について「適切に伝えられている」が「そう思う、ある程度そう思う」が在校生・卒業生保護者共に95%以上と高評価であり、理念・方針に対して共通理解のもと、学校運営を実施できている。	3.9	昨年度から0.1ポイント下がったが、オープンスクールなどで徹底していることから、スタッフに周知できていると考えられる。
1-2	学校における人間教育その他の教育指導等の特色は明確か	3.4	1-2 ＹＭＣＡの「精神・知性・身体」の調和の取れた全人教育の理念を本校の教育理念としてパンフレットやホームページに明記し、生徒には学校説明会やオリエンテーションにて伝え、日常の学校生活の中でも何度もスクールモットーについて振り返る場を設けている。	4.0	
1-3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.0	1-3 不登校の生徒数増、日本語指導が必要な生徒数増など社会のニーズに対して様々な支援・対応をしている。	3.7	社会のニーズを踏まえた教育活動を行っているが、将来構想まで考えられているか見直しが必要ではないか。
1-4	学校の理念（スクールモットー）・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、生徒学生・保護者等に周知がなされているか	3.2	1-4 昨年度より数値が上昇。国際学科では教職員間で教育理念について話し合う場を設けたことにより、昨年度よりも数値があがっている。	3.6	昨年度の2.9ポイントが低評価ではないが、全体が３以上がほとんどなので気になる数字ではあった。改善理由を聞けて納得ができた。
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する分野のニーズに向けて方向づけられているか	3.1	1-5 「教育内容は『人』として育つ内容になっているか」に対して、昨年に引き続き在校生保護者93%、卒業生保護者97%が「そう思う、ある程度そう思う」と回答している。国際学科は外国籍の編入生が安心して入学できる数少ない学校の1校である。	3.5	
(2) 学校運営		3.1		3.3	安全管理、防災面など運営の上での安全についても評価する必要がある。 また、安全教育、安全管理の観点から学校安全計画を立てる必要がある。
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.2	2-1 運営方針、意思決定機能は明確であり、ボトムアップでスタッフ自身が考え評価する機会が多くある。今後もより丁寧に行っていく。	3.6	
2-2	運営方針にそった事業計画が策定されているか	3.1	2-2 法人全体での10年単位のビジョンに基づき3カ年の中期事業計画を立て、学校の年度単位の事業計画を策定し、各学校運営ができている。	3.5	
2-3	組織運営上有効な意思決定が行われているか	3.0	2-3 事業計画は理事会・評議員会で意思決定され、学校法人経営会議および運営会議がそれを受けて具体的な運営を行う。 各課程・学科責任者が部門の目標、役割を明確にしつつ部門同士の連携を図りながら運営し、所属スタッフは責任者より示された職務分掌に従い目標を理解し、役割と責任を果している。	3.2	
2-4	運営会議や判定会議等、必要な意思決定に自分が参加できている実感があるか	3.5	2-4 安心して意思決定のプロセスに参加できていることが分かる。	3.6	日々の会議が意見を言いやすい雰囲気であることが想像できる結果である。
2-5	人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.9		3.0	教職員に規程等はどのように明示しているのか。
2-6	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1		3.0	
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.2	2-7 自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報はホームページで公開。日常的な教育活動もホームページやInstagramで発信されている。	3.4	
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.9	2-8 本部事務局のICT室で全事業所の業務管理と効率化を図るとともに、本校でICT専門の専任教職員を置き、部門の事情・特徴に応じ対応している。Googleを利用した情報システムツールを使用し、より効率的に仕事が遂行できている。	3.3	ICT専任教員の配置やGoogle情報ツールの活用による業務効率化が進んでいる。更なるペーパーレス化や教職員の校務負担軽減に向けたシステム活用を推進されたい。

(3) 教育活動		3.2		3.4	授業評価アンケートによる改善の試みは評価できる。授業規律の確立とともに、次の進路を見据えた適応力を育む体験型教育のさらなる推進を期待する。
	（目標の設定等）	3.1		3.5	
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.1	3-1 「教育カリキュラムはわかりやすいものになっているか」に在校生保護者・卒業生保護者ともに91%が「そう思う、ある程度そう思う」となっており、高評価を得ている。	3.8	保護者の9割以上から教育カリキュラムの分かりやすさに高評価を得ている。各学科の特色を活かした丁寧な年間教育計画の策定と見直しを継続されたい。
3-2	教育理念、育成人材像を踏まえた学科の教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.1	3-2 日頃から言語化して伝えていくことで、教職員の中で共通理解が得られている。 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等は、それを具現化するために編成している。	3.3	
	（教育方法・評価等）	3.2		3.4	
3-4	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.3	3-4,5,6 時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させている。カリキュラムは毎年見直しを行い、時代のニーズに対応している。 「授業のカリキュラム・内容に満足しているか」には在校生保護者90%、卒業生保護者91%が「そう思う、ある程度そう思う」とどちらも2024年度より高評価となっている。	3.2	カリキュラムの見直しはどのような頻度やどのメンバーで検討しているのか。
3-5	卒業後の自立を見据え、地球市民として生きていくためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	3.1		3.4	アウトドア等の体験型授業や外部人材との関わりを通じて、次の進路先でもつまずかずに適応できる自己肯定感や課題解決力を育む取り組みを期待する。
3-6	実践的な職業教育（キャリア教育、体験の機会等）が体系的に位置づけられているか	3.1	3-7 質問「進路について適切な相談や情報提供がある」在校生81%。卒業生79%が肯定的な評価である。キャリア教育としてゲストティーチャーを呼んだり、キャリアビジョンを考える時間はしっかりと持っている。	3.3	
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.0	3-8 国際学科は授業アンケートを実施したことにより、数値が上昇した。	3.2	昨年度から改善したことは評価できる。授業アンケートへの教員の反発はなかったか。授業アンケートをした後、どのように運用しているか、教員へのフィードバックの仕方はどうしているか。
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.1	3-9 成績や進級の基準は各学科とも学務要項や進級判定会議で明確に示されている。今後、教職員間での十分な共有が必要である。	3.8	
	（資格試験）	3.0		3.4	
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（P検・漢検・英検）	3.0	3-9 英検やIELTSなど英語資格の取得が授業でも積極的に進めている。	3.4	
	（教職員）	3.4		3.4	
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3.1	3-11 教員の持つ資格や経験を重視している。その結果、魅力ある授業を行うことができている。	3.4	教員の人間性はどのように見極めているのか。資格や経験以上に人間性が求められるのではないか。
3-11	関連分野における研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	3.1	3-12 多岐にわたる専門職を育成している機関との連携がとれており、採用に繋がっている。募集活動は責任者が行っている。	2.9	
3-12	教職員の研修等が行われているか	3.7	3-13,14 教職員の研修は、職員と専任教員に対しては大阪ＹＭＣＡ全体で年二回の安全研修、年一回の人権研修がそれぞれ実施されている。高校生事業として年間で研修計画を作成し、救急法や対象理解の研修を実施した。高等課程主催の一般教職員向けのセミナーや他団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしている。	3.4	この数字から、適切に研修が行われていることが読める。
3-13	適切な時期に適切な学校行事を実施できているか。また、生徒が主体的に参加できているか。	3.6		3.9	生徒の主体的な参加と高い行事満足度を評価する。不登校経験を持つ生徒にも配慮しつつ、学科の特性に応じた行事のあり方を今後も工夫されたい。
3-15	学校内外の活動の情報提供を行なっているか	3.4	3-15 さくら連絡網についての質問には、在校生保護者93%、卒業生保護者97%が「そう思う、ある程度そう思う」と高評価となっている。	3.4	

(4) 学修成果		3.3		3.5	
4-1	進路決定は主体的に行われているか	3.6	4-1 進路決定率の向上について　本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には大学担当者（国内・海外）、専門学校担当者、職業訓練校担当者が、生徒一人ひとりの希望に応じて、進路指導を計画的に実施している。	3.9	進路指導は専門性が必要な業務である。その専門性はどのように身につけているのか。研修や引き継ぎを行っているのか。
4-2	資格取得率の向上が図られているか	2.9	4-2 3- 9同様、英検やIELTSなど英語資格の取得が授業でも積極的に進められている。	3.6	
4-3	退学を予防する仕組みが整っていて、退学率の低減が図られているか。	3.1	4-3 退学予防に向けて日々の様子を把握し、早期に声かけや対応をすることによって退学者数が減少したため、数値も上昇している。	3.7	早期の声かけなどで退学者が減少していることなど、スタッフの日々の努力を感じられる。
4-4	学習内容の定着が図られているか	3.4	4-4 特に表コミでは高い評価となっており、学習が身についていることがうかがえる。	3.3	年度によって学習の習得度合が違う。学習に向き合えるかという生活習慣などから改善する生徒が多いときがある。第二の支援学校的な存在に臨機応変な対応が求められる。
4-5	学習習慣の定着が図られているか	3.1	4-5 昨年度の評価を基に新しく項目を追加。特に表コミでは高い評価となっている。	3.3	生活習慣や学習習慣の定着に向け、個々の実態に応じた臨機応変な支援の継続を期待する。
4-6	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3	4-5,6 例年同様、表コミでは卒業生にアンケートをとり把握し、またボランティア募集や学校行事の際に卒業生メーリングリストを活用している。両学科とも卒業後に相談や報告で	3.5	卒業後もコンタクトをとる学校の姿勢は評価できる。困ったときに帰ってこれる学校であってほしい。
4-7	卒業生の卒業後の進路を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.3	卒業生が来校する回数が多く、そうしたリアルなコミュニケーションの中で、卒業後の進路についての情報を常にアップデートできている。	3.0	卒業後の来校や相談を通じて進路情報は把握できているが、得られた知見や課題を在校生のカリキュラムやキャリア教育へ体系的にフィードバックする仕組みづくりを期待する。
(5)生徒支援		3.4		3.7	手厚い相談体制や合理的配慮は極めて高い評価を得ている。今後は教職員の負担軽減を図るため、組織的な対応体制の確立と外部機関・ボランティアとの連携を進める必要がある。
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.4	5-1,2,5,6 国内外大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者と、各クラス担任を配置して、一人ひとりの志望と能力資質に合せて進路指導と生徒相談への対応を行なっている。	3.8	
5-2	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	3.7	5-2 「教職員は親身に相談にのってくれる」在校生85%、卒業生91%、「いつでも相談できる場所がある」在校生82%、卒業生86%、「進路について適切な相談や情報提供がある」は在校生80%卒業生79%といずれも高評価となっている。	3.9	例年高評価である。学校の大きな特色である。
5-3	生徒に対する分納・延納等の経済的な支援体制を整備しているか	3.9	5-3 分納や延納の制度などが整備されている。	3.8	
5-4	生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	3.3	5-4 保健室を設置し、常勤の養護教諭がいる。また毎年健康診断、レントゲン検診を行っている。生徒の主治医とつながるケースも少なくない。	3.8	常勤の養護教諭が常駐する保健室の存在や主治医との連携体制は手厚い。心身両面の健康観察を徹底し、学校と家庭が連携して生徒を見守る体制を維持されたい。
5-5	課外活動に対する支援体制はあるか	3.3	5-5 昼休みの体育館利用、またアートクラブや演劇部、BBB（ビビデバビデ部）といった芸術系の居場所づくりを積極的に行っている。	3.8	
5-6	生徒の生活環境への支援は行われているか	3.1	5-6 表コミでは大学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に生徒のサポートをしている。国際学科では、日本語の苦手な生徒には国語、歴史等は個別に日本語指導を行うと共に、授業による良質の出会いの場を提供している。	3.6	
5-7	生徒の課題や特性にあった支援ができているか	3.6	5-7 カウンセリングルームを設置し、常勤のカウンセラー、養護教諭がいる。生徒の希望に応じてカウンセリングを実施している。課題や特性をもつ生徒が多くいることから、合理的配慮のシステムが確立している。総合教育センターとの有機的な連携ができている。またユニバーサルデザインも進めており、校内文章はUDフォントを使用している。	4.0	カウンセリング体制や合理的配慮、UDフォントの導入など、特性に応じた手厚い個別支援システムが確立されている点を最高評価として称えたい。
5-8	保護者と適切に連携しているか	3.4	5-8 定期的な保護者会がある。表コミは年６回の保護者交流会、国際学科ではＰＴＡを組織している。	3.8	表コミの保護者交流会や国際学科のPTA活動など、密接な連携体制を評価する。学校での様子をタイムリーに伝え、共に生徒を支える関係を継続してほしい。

5-9	卒業生への支援体制はあるか	3.4	5-9 同窓会組織、卒業生の山歩き同好会、ボランティア活動など多岐に渡って卒業生が活動できる場がある。また表コミでは卒業後の二十歳の祝福礼拝を行っており、卒業生保護者からも感謝されている。卒業生同士が再会できる貴重な機会となっている。国際学科では卒業生が担当している授業もある。	3.8	「二十歳の祝福礼拝」や同窓会活動、メーリングリスト活用など、卒業後も温かく受け入れる独自の居場所機能が高く評価できる。
5-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.4	5-10 表コミでは不登校の生徒、国際学科では日本語教育が必要な生徒に対する整備を進めているため、高い評価となっている。	3.5	
5-11	大学・専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3.1	5-11 表コミでは、専門学校と連携したキャリア教育の取り組みを始めている。国際学科ではインターンシップ実習を実施している。	3.1	
(6)教育環境		3.1		3.5	
6-1	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.6	6-1 設置基準に基づき、快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保、それらの整備状況を常に把握し、使用計画、使用案内を行っている。５年計画で内装や備品の整備を実施。2024年度はPCルーム更新を実施し、ICT環境を改善した。「施設・設備が充実」と回答した割合は在校生83%、卒業生66%で、改善傾向にある。	3.0	改善可能な環境は改善すべきなのではないか。動かしやすい机に変えるなどは見た目上大切なのではないか。動かしやすい机・椅子はストレスを軽減させる。
6-2	生徒の課題や特性（認知の課題・視覚等）にあった合理的配慮、環境整備があるか	3.4	6-2 国際学科では2021年度よりＢＹＯＤ（一人一台の端末を持参）、表コミでは2024年度よりＢＹＡＤ（学校管理の一人一台iPad端末持参）を実施している。	4.0	一人一台端末（BYOD）の導入定着やUDフォントの活用など、多様な認知・学習特性に応じた先進的な環境整備が行われている点を最高評価として称えたい。
6-3	学校内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.4	6-3 大阪ＹＭＣＡの各部署（阿南国際海洋センター、アフタースクール、サンホームなど）、また韓国スタディツアーや国際学科のデンマークエクスチェンジプログラムなど、学校内外での様々な教育機会の提供ができている。	3.6	
6-4	防災に対する体制は整備されているか	2.9	6-4 大阪ＹＭＣＡ全体で作成の「安全管理ガイドライン」に基づいて作成した本校の防災マニュアルに従った要員配置と役割明確化により法令に基づいた防災訓練を行っている。従来の火災対応に加え地震津波の想定にも対応した訓練を加えた。要員の異動による変更は毎年確認し、責任を明確にしている。	3.3	避難訓練の実施に加え、文部科学省指針やYMCAの理念を踏まえた「学校安全計画」の策定など、組織的な安全管理・安全教育の体系化を進める必要がある。
(7) 生徒の受入れ募集		3.4		3.6	適正な募集活動と高い入学満足度が維持されている。本校の特色ある教育成果や生徒の成長プロセスについて、中学校や受験生に向けた更なる「見える化」を期待する。
7-1	高等学校／中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	3.4	7-1 本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法においては教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めている。広報に用いるパンフレットやＷｅｂサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成している。学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップも行っている。	3.8	中学校訪問やオープンスクール、相談後の丁寧なフォローアップなど、教育機関としての節度を持った誠実な募集広報が定着している点を評価する。
7-2	生徒募集活動は、適正に行われているか	3.4		3.9	7-2 入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載している。
7-3	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.4	7-3 「この学校に入学してよかった」と回答した割合が在校生86%、卒業生88%と高く、学校選択の満足度、受け入れ募集の成果が裏付けられた。	3.5	高い入学満足度を裏付けとし、アウトカム評価や語学力・進学実績といった具体的な教育成果を受験生・中学校へさらに分かりやすく発信されたい。
7-4	生徒納付金は妥当なものとなっているか	3.5	7-4 理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学生生徒納付金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定している。	3.4	
(8) 財務		3.0		3.2	会計監査および情報公開は適正に行われている。中長期的な財務基盤の安定化に向け、適正な収支管理を継続するとともに、教職員への財務状況の共有を進める必要がある。
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.6	8-1 本部事務局の財務と学校事業本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては毎年の理事会・評議員会のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。	2.7	中長期的な財務基盤の安定は継続課題である。社会経済情勢に左右されない生徒数の確保に努めるとともに、財務状況の教職員間共有を進めてほしい。
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.0	8-2 予算収支は中期計画、年度計画に基づいて執行し、その妥当性は理事会・評議員会でチェック、予算の問題点や今後の動向について業務組織に対する指摘が行われる。	3.0	

8-3	財務について会計監査が適性に行なわれているか	3.4	8-3,4 学校評価公開にあたり、財務情報の公開も行っている。年度ごとの理事会・評議員会監事のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。	3.7	監事および監査法人による年2回の会計監査が適正に実施され、理事会・評議員会への報告も確実に行われている。健全なガバナンス体制を継続されたい。
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.2		3.5	
(9) 法令等の遵守		3.6		3.7	法令遵守や個人情報保護の体制は高水準に維持されている。
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.4	9-1 本校では、学校法人本部、本部事務局が法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、学校法人本部、本部事務局への報告を通して運用が適切であるかどうかを検証している。	3.7	
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6	9-2 2005年以来、大阪ＹＭＣＡが定めた個人情報保護ガイドラインにもとづき、学校に必要な個人情報の保護を、学校法人本部主導のもとに運用し、毎年の講師会において常勤者・非常勤者ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めていて評価も高くなっている。	3.8	ガイドラインに基づくUSB使用禁止や講師会での注意喚起など対策は評価できる。面談記録や生徒相談内容の取り扱いも含め、個人情報保護の徹底を継続してほしい。
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.6	9-3 全国のＹＭＣＡ専門学校グループとして2005年から独自の自己点検・自己評価を行ってきた。2008年度から実施と公表の義務化にあわせ、積極的に公開している。	3.5	
9-4	自己評価結果を公開しているか	3.7	9-4 自己評価結果は公開している。	3.8	自己評価結果は公開しているので本来4.0になるはずだが、3.7となっている。異動などで自己評価を公開していることを知らない教職員がいることが予測される。今後、自己点検アンケート実施の意義と公開していることを教職員に十分に共有する必要がある。
(10) 社会貢献・地域貢献		3.3		3.8	地域イベントへの参加やボランティア活動の奨励は生徒の主体的な成長に寄与している。
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献（不登校支援など）・地域貢献を行っているか	3.2	10-1,2 本校では、ＹＭＣＡの特色を活かし、多くの社会活動に取り組んでいる。学校行事としてのボランティア活動はもとより、ＹＭＣＡ全体行事として、また土佐堀地域活動委員会との連携、ＹＭＣＡのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、地元西船場地区との協働や西成や生野（いずれも大阪市）地域、淀川キリスト教病院での社会貢献活動を生徒が行っている。不登校の中学生の学び舎も実施、生徒との交流も行っている。 また、大阪市や尼崎市から不登校支援事業への委託を受け、3拠点の運営を行うとともに、付随事業として公立学校への研修を実施している。	3.9	不登校支援事業の受託運営や公立校への研修派遣など、教育資源を地域に還元する卓越した取り組みを学校全体の成果として評価する。
10-2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.6		3.8	英語幼稚園で遊びながら学ぶボランティアや西船場納涼祭に参加した生徒が多くなってきたことが自己評価の高さにつながった
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.1	10-3 オンライン公開講座を実施した。講師派遣、教育機関への巡回相談は例年通り実施した。	3.7	
(11) 国際交流		3.6		3.8	YMCAの強みを活かした国際交流や多文化共生の環境は極めて高く評価できる。留学時の単位認定等の丁寧な説明・文書化を進め、より安心して参加できる支援体制を期待する。
11-1	外国籍や外国にルーツを持つ生徒も入学しやすい状況か	3.8	11-1～4 学内に留学生が200人以上いることや、国際学科においては在籍生の中に外国籍、外国にルーツのある生徒が５割、またＹＭＣＡインターナショナルスクールをもつ組織であり、世界の120の国と地域にＹＭＣＡがある組織という恵まれた環境を生かし、生徒の国際交流も活性化している。国際学科を中心に、デンマークとの交換留学、韓国スタディツアーを実施した。	3.9	外国籍や外国ルーツの生徒を広く受け入れ、手厚い日本語指導を行っている点は、共生社会のモデル校として極めて高い教育的意義を有している。
11-2	YMCAのネットワークを活かした国際交流プログラムを行っているか	3.6		3.9	海外交流プログラムの充実を高く評価する。一方で、留学時の単位取得や手続き等について、生徒・保護者が安心できるよう丁寧な文書化と説明を望む。
11-3	外国籍生徒の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3.4		3.8	個別の日本語指導や生活支援体制が整えられている。日常的な多文化環境の中で生徒同士が刺激し合い、視野を広げる教育効果が出ている点を高く評価する。
11-4	留学生・外国籍生・海外交流プログラムなど多様性を生かした活動を行なっているか	3.5		3.6	
全体平均		3.3		3.5	